

公表

令和7年度 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ラボール発達教室Advance

公表日

2026年3月26日

利用児童数

4名

回収数

4

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4					ガイドラインでは15歳以上を推奨されておりますが、アドバンスでは20歳確保しております。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	4					有資格者を配置し専門的にお子様の療育を行えるように努めております。また、規定人員より多く配置しています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3	1				お子様一人、一人の特性に応じてパーテーションなどを活用するなど部屋を考慮しながら活動を行っております。また、特性に合わせて音や光などの調整も行い、お子様が安心できる環境づくりを努めています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4					活動毎に使用した机、椅子またおもちゃ、教材等はアルコール消毒しており、トイレ、ドアノブ等も一日数回拭いて清潔な空間を保っております。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	4					お子様の発達に合わせて職員間で会議し、最善の療育を提供できるよう努めております。また、定期的に事業内での研修や外部研修を受けて職員の質の向上を図っております。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	4					ホームページの「お知らせ」欄に掲示しております。ぜひ、ご覧ください。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	4					担当者だけでなく職員会議を設けてお子様の個別支援計画をインクルーシブの視点で検討し作成しています。今後もお子様にとって必要な支援を職員一同考えていきたいと思っております。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	4					・個別支援計画会議で職員間でお子様の支援方針を共有するだけでなく、担当者は支援前にも必ず確認し、目標に向けて療育を行っている。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	4					個々のお子様の発達に応じた内容を職員間で考え、その時に最善の療育に努めております。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	3	1				個別療育のため交流する機会がありませんがご希望がございましたらお知らせください。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。		1	2	1		
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	4					日頃から支援内容にご理解頂きありがとうございます。今後ご家庭と連携しより良い支援ができるよう努めて参ります。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	4					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4					ご希望者を対象に本年度は「学齢期からの取り組み」についてや「卒後の障害福祉サービスの進路」などの講座を開設させていただき、研修や情報共有の場を設けてさせていただきました。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	4					送迎時や子育てサポート、家族支援（事業所内にて相談）などでお子様の特性や発達に関する共有を保護者様とさせていただいております。相談方法についても柔軟に対応させて頂きたいと考えておりますので、お気軽にご相談下さい。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	4					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	4					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3			1		本年度は父母の会で就学相談会の開催や就学期の取り組みなどお子様の将来を見据えた講座などを開催いたしました。保護者同士の交流もしていただけますのでぜひ、ご参加ください。
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4					ご相談いただき、情報を共有させていただけることで適した支援へとつながることができそうです。今後もお話をお伺いできる機会を設けていきたいと思っております。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	4				お子様の集中が途切れないように動画配信により療育内容をご覧いただきながら情報共有させていただく機会を多く設けております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4				通信の発行、ホームページ、ブログ等で事業所の様子や取り組み等の発信を行っておりますので、ぜひ御覧ください。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	4				鍵付きの書庫にて外部に流出しないよう保管しております。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3			1	事業所内にてマニュアル化しております。それに基づいて避難訓練、防犯訓練を行っております。保護者の皆様にはブログ等でお知らせしておりますのでご覧ください。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3				1
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	4				ラボール発達教室Advanceの療育方針にご理解とご協力をいただきありがとうございます。感謝申し上げます。私たちはお子様が楽しく通って頂くためにも定期的に事業所内外の研修を行い、職員の質の向上を図っております。何よりお子様の笑顔や成長が励みになります。これからも分かりやすい支援を目指し、お子様が活動を楽しみ、時には少し挑戦しながら成長していけるように職員一同尽力いたします。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	3			1	
	29	事業所の支援に満足していますか。	4				

公表 令和7年度 事業所における自己評価結果

事業所名		ラポール発達教室Advance					公表日	2026 年 3 月 26 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9						
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9						
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9						
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9						
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9						
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9						
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9						
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9						
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9						
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9						
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9						
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9						
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9						
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9						
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9						
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9						
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9						
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9						

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	/	/	/	/
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	5		個別療育、小集団療育のため希望される保護も少なく、地域からのご要望もないため、今後は必要に応じて検討をしていきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9				
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9				
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9				
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9				
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9				

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9			
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	2		名東区役所で行われる事業所合同説明会などに参加しております。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9				

公表

令和7年度 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ラポール発達教室Advance			
○保護者評価実施期間	2025年11月17日		～	2025年12月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○従業者評価実施期間	2025年11月17日		～	2025年12月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられている」と多くの保護者から高い評価をいただいている。多職種で協議した個別支援計画に沿って療育を行っていることや、職員が継続的に研修を受けて専門性を高めていることが、質の高い支援につながっており、当事業所の強みとなっている。	お子様の行動観察を通して感覚特性や発達段階を把握し、安心して活動できる環境を整えている。また、多職種で支援方針を検討し、定期的に事業所内外の研修を受けることで、職員全体の専門性向上に努めている。	お子様が「好き」「楽しい」「できた」と感じられる経験を積み重ねられるよう、今後も多職種で支援内容を検討し、保護者と日々の様子を共有しながら、より質の高い支援へとつなげていきたい。
2	療育内容を毎回保護者へお知らせしていることや、送迎時にお子様の様子を直接共有できることから、保護者との情報共有が円滑であり、「日頃からこどもの状況を伝え合い、共通理解ができていく」との評価を多くいただいている。丁寧な説明や情報共有が当事業所の強みとなっている。	通所時にご家庭での様子を伺い、支援前に体温測定を行うなど健康状態の把握に努めている。また、動画配信で療育の様子を共有したり、使用教材を保護者に直接見ていただくなど、お子様の成長が分かりやすいよう工夫している。相談が必要な場合は別日程で時間を確保し、相談の場を設けている。	家族支援や子育てサポートの制度を活用しながら、保護者とお子様の様子を継続的に共有し、より適切な支援につなげていきたい。お子様の成長を保護者と共に喜び合える関係づくりを今後も大切にしていきたい。
3	「環境・体制整備」の項目で多くの良い回答をいただいている。お子様の特性を把握した上で、光や音などの刺激を調整したり、視覚支援を用いて分かりやすい環境を整えるなど、個々に合わせた構造化ができていく点が強みとなっている。	お子様の成長に合わせて机や椅子の高さを調整したり、感覚特性に応じてパーテーションを使用するなど、集中しやすい環境を提供している。また、視覚支援や副教材を活用し、行動が分かりやすくなるよう工夫している。療育者の動きや声の高さにも配慮し、安心できる生活空間づくりを行っている。	お子様の成長に合わせた構造化が重要であるため、保護者と密に情報共有しながら、物理的環境の調整や視覚支援の活用をさらに進め、よりお子様に適した支援へとつなげていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	将来的に社会参加していくことが重要と考えるが、保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域で他の子どもと活動する機会が少ないことが課題である。	併行通園しているお子様が多く、地域での生活経験はあるものの、集団生活に苦しさを持つお子様が多いため、現在は個別で安心して取り組める支援を優先していることが要因と考えられる。	将来的な社会参加を見据え、保護者の意向を踏まえながら、保育所等訪問や関係機関連携制度を活用し、無理のない範囲で地域とのつながりを広げていけるよう支援していきたい。
2	安全計画に基づき毎月の避難訓練や防犯訓練を実施しているが、保護者への周知度が十分ではないことが課題である。	ホームページ・ブログ・通信での周知が中心となっており、訓練を実施した曜日のお子様の保護者にしか情報が届かない場合があるなど、リアルタイムな発信が難しいことが要因と考えられる。	訓練の様子を動画で共有したり、療育後のフィードバック時に直接お伝えするなど、より分かりやすい情報共有に努めたい。また、毎月の安全点検の様子をブログで発信するなど、防災・防犯に関する情報提供を増やしていきたい。
3			